863
10

沿海異聞

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10

ガラス使用

863-10

沿海異聞

南畝子輯

一 寛政元年己酉二月紀州南海英船漂流沒之事

英船ハ異國人図

一 寛政三年辛亥三月紀州口熊野ニ同人情浦ニ寄船或船来ル書付

壹船ハ壹字漢字書付写同名書付モ通 消

別紙ハ漢字ニ書付写

一 同年筑前長門石見之沸ニ英國船人ハ身ヲ石ニ沒シ

向ニ去 沸建ニ御書付写

863-10

沿海異聞

南畝子輯

一 寛政元年己酉六月紀州本田浦吳船漂流沒之事
吳船并異國人図

一 寛政三年辛亥三月紀州口熊野之内大鳴浦ト云ヘ船或船
来ハ書付
雲船并雲字漢字書付写問答書付之通 附
別ニ漢字并書付写

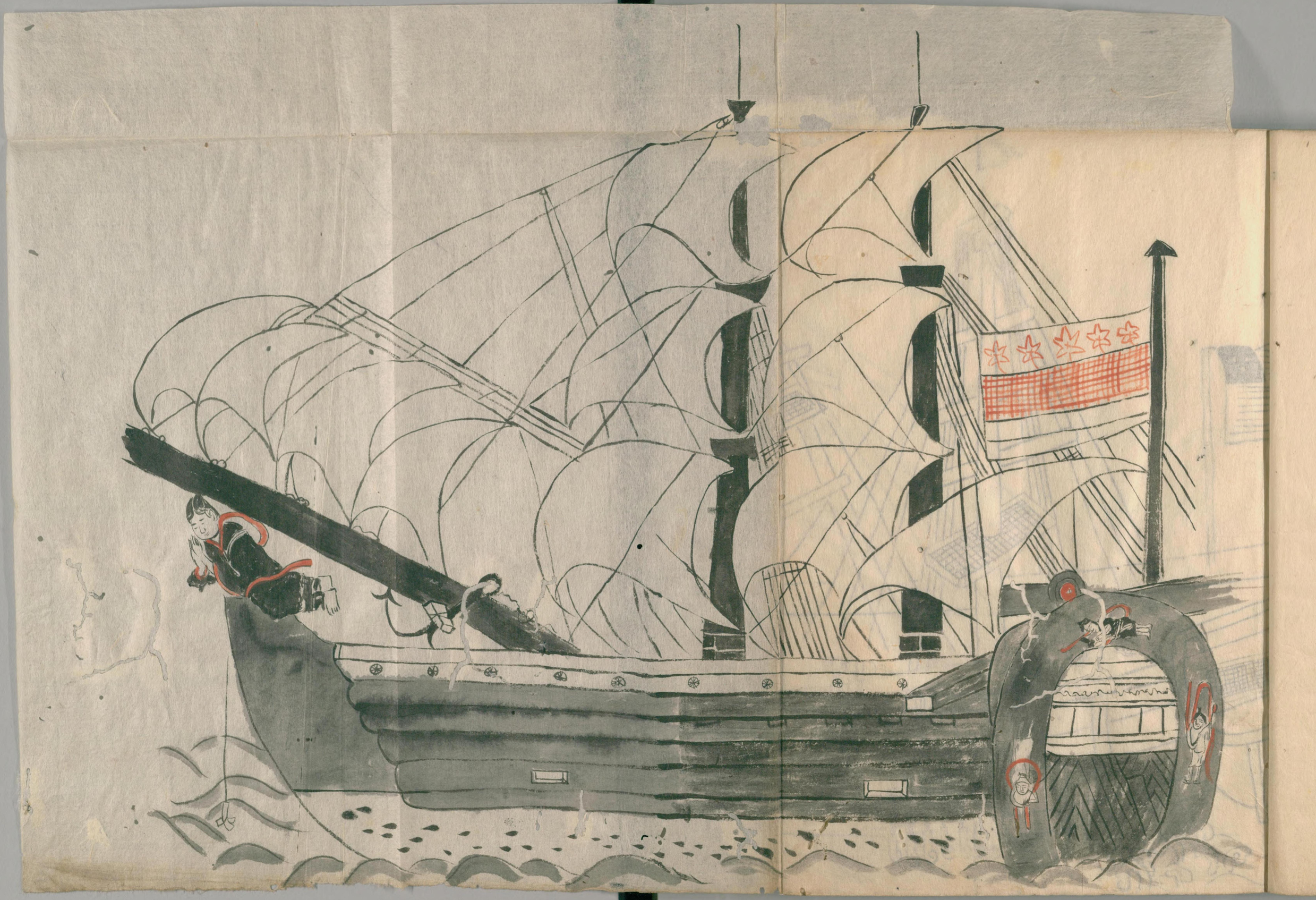
一 同年筑前長門石見之津ト吳國船人ト申付万石沒之
面之ト云 御達ハ御書付写

国立国会図書館 タイトル『沿海異聞』 請求記号 863-10
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10
ガラス使用

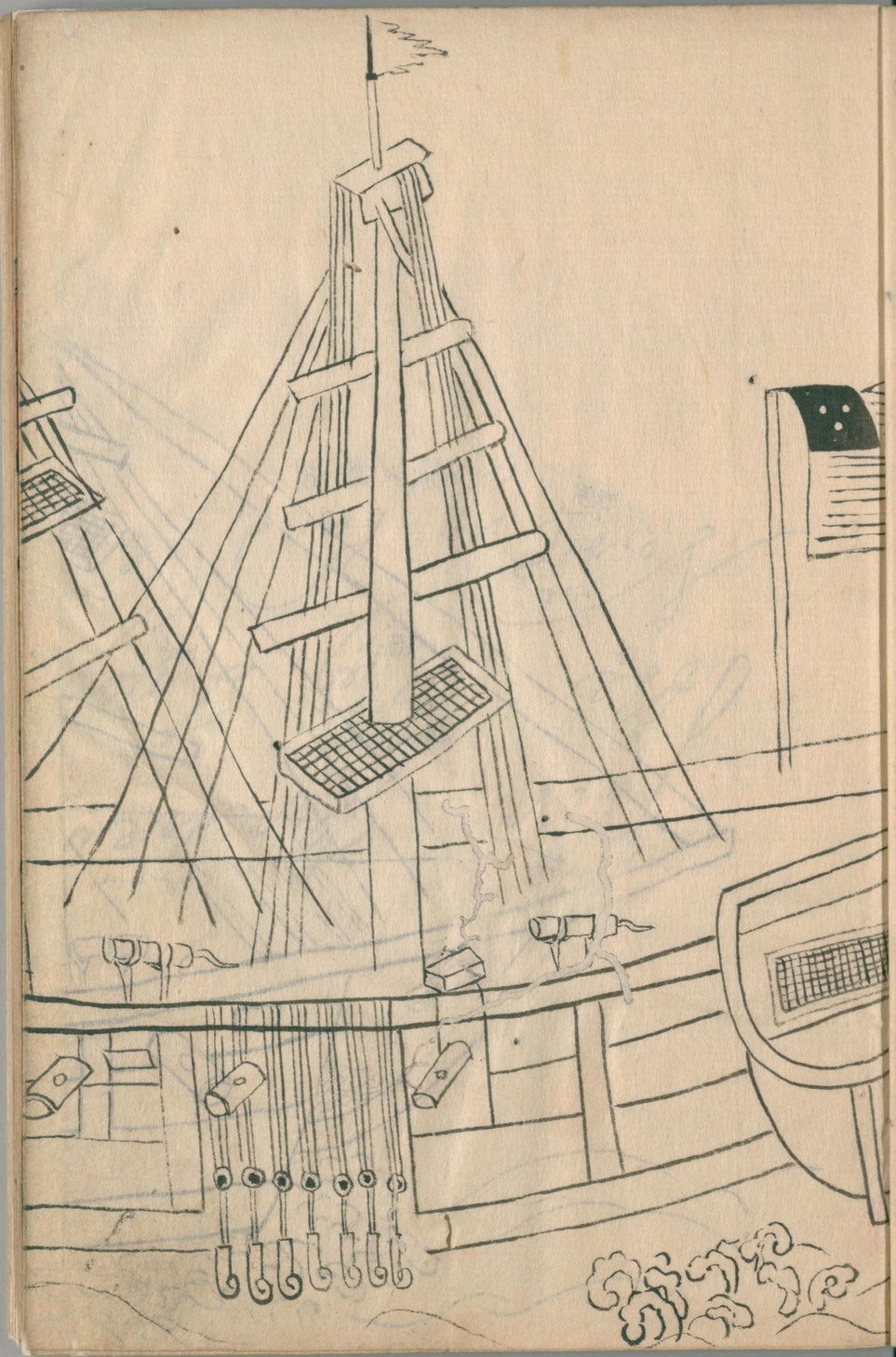
国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10

ガラス使用



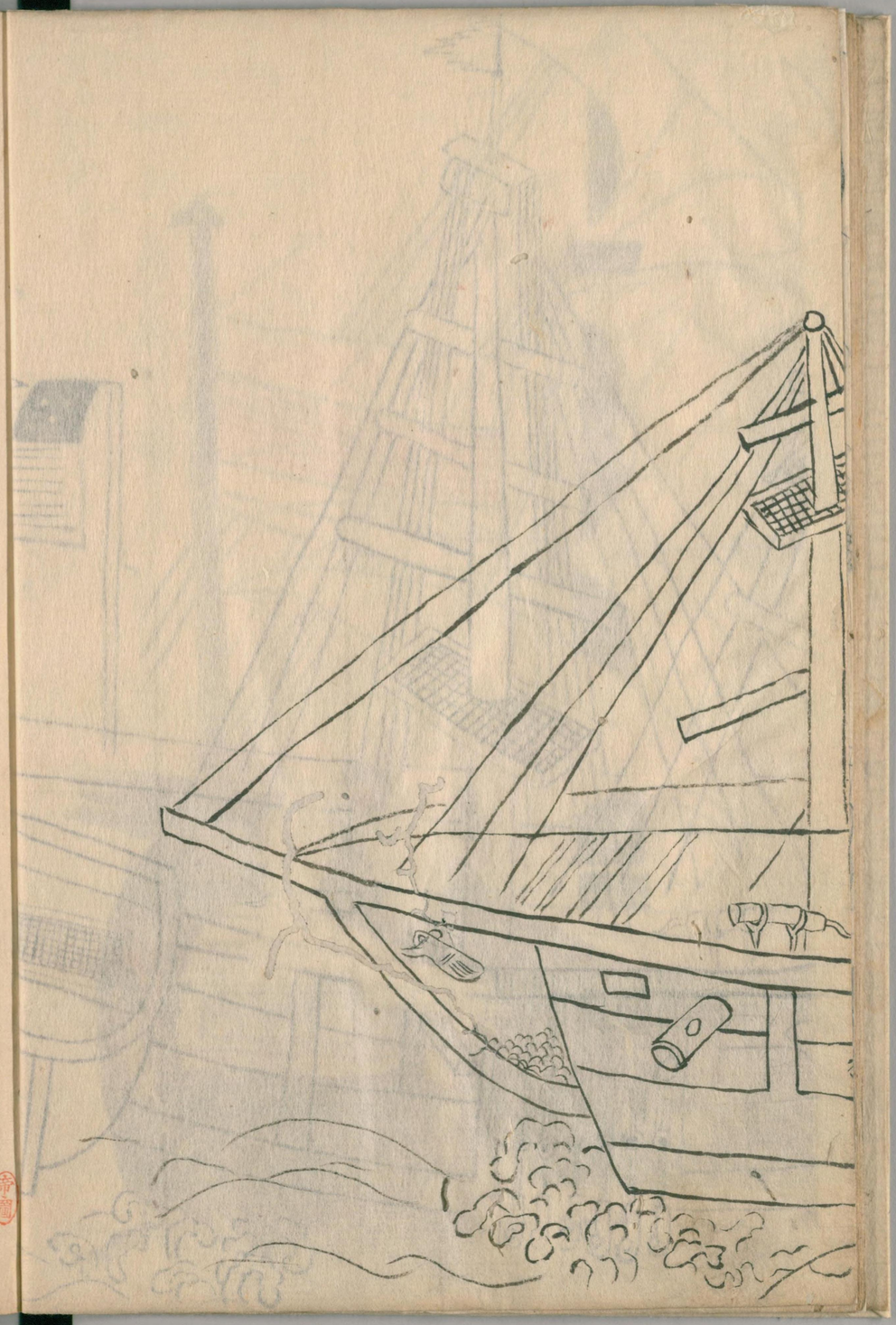
国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 863-10

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 863-10

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 863-10

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10

ガラス使用

居ましきかみ漁人ともしらんに事の分ゝ兼ねて懐
復の事も云し[illegible]此日夕少炮武三拾も放しに[illegible]
中事[illegible]に[illegible]同役[illegible]
[illegible]地土或拾人合連[illegible]六日當帆[illegible]
[illegible]小合[illegible]少船[illegible]炮を放しに[illegible]
船少[illegible]船を[illegible]船[illegible]
[illegible]人中華人[illegible]人[illegible]
コヒヤの[illegible]華人[illegible]通[illegible]
[illegible]
常[illegible]
紅毛[illegible]
世書[illegible]ノカタワラ小書[illegible]華人[illegible]

[illegible]船乃是紅毛船地名[illegible]貨物乃是銅鉄及少炮
五十員在中華國[illegible]華國而去[illegible]遭
風浪漂流至[illegible]
[illegible]船人[illegible]貨物[illegible]銅鉄[illegible]
別物船[illegible]石[illegible]

所贈書説漂流到此之事既兼當之但外船之留滞多
日處置本有国法故詳問之如左宜二明白見答可也
一 漂流經日粮米得無欠之乎如之則宜告之莫有相悼賑
救之義国全本有豫命可施行耳

一 發船想當因風使不好風則住其留滯不自我促之固
不相疑耳

一 花其之地紅毛中當東西何方聞紅毛與中華不相交今
云在中華不知中華在何地言赴皮草國皮草者國名
乎將以其地有皮草故其國乎如何前年亞馬利加
船來亦曰有皮草蓋之意者得非同種乎

一 貴船官船乎商船中亦有官人否

一 所載銅鉄火炮官物乎柳所齎之物乎以歷海洋常有
此具以為備乎

一 漂到此地何日何處而遇颶致漂蕩乎如然則兩船當
離析而連聯相並何也

一 前放火炮數回者何故如童欲放之當先告而後放之
可也火器之拳本有國法不可容易也

一 蠻船之來南土自古無之而近年數々有之不審何故
古無之而今數有之也

一 堅德力記似非紅毛人名之例如何

一 所問如是如欲直答且有所訪則兩三人可也上岸否

右所問數件願二分晰々告之莫有所隱

別本漢字并書付字之通

唐船乃是紅毛船地名花其載貨物乃是銅鉄及火焔
五十員在中華国赴一度単国而去無絶其地偶連風
浪漂流至此在其地不過三五日之間不好風雨在此安穏
即日去此去平船人率百貨物實是銅鉄並無別物船
主名堅德力祀

無訴 横文字 文行 海有之 海代単法宋船教船當

羅郡志 海沖行有之 唐船形式 渡海 長 拖 舟 余 家 後
舵 鬼 舳艫 別長 艫 并 窓 舵 古窓 猪 是
海 有方 尺 間 艫 物 有之 一方 三 四 四 方 尺 飛 唐人

補し人形造立船に編而し鉄砲補し物あるんに船の隙より
少々無雑桐にて包み仰ぎ木見へ其上にて白木又は黒塗にて
筆にて播或は立女の縄影変撮にて播中種横木有
しかし蓋補おるんに臆して上に仰散補し物立上して今に船は
長サ八丁位造形門仰袖に柳子に仰補し物造り立て水門
仰帆は播き其中三ツ宛て越りに越ひ帆も白木帰帆ゆるんに
被其門仰縦しり船縦仰ぎり仰先キ柳の先の船くるんに船縄に
人にて白人物も無髪にしるんに仰中ゆつかり右し門立て年隙是
我は南京人にて仰ぎ船の義あるんにはよして被れ乱我人
斗て而但立し也

右紀伊國浦に源兄に書付写

寛政三年亥三月

門四月六日好屋にまり船の帆のよし

先に鉄砲長門石見し沖に異國船を被源流し柳子に而
注意しは宗敵に前義有ると地先に近く高来に御義
此方彼是日数八日程し内右し越に変南付て帆船と
あるんに越は無る異國船源着にて行きたり此国我
先船奥は其上に恵長御義に送り差しは義達にて其国
事は此来異國船の人越にて早こう中国の人数筆を配り
先見越り事に何しく仰ぎ我し年浜役或も申分
者ゆいてし柳子に試可りに此若相に越にて船をも人をも
打倅に会着筋に方彼船に宗移り風速に出働切拝にて
いてしにて石浦に縄し越にて出し事に無し自然の人間火矢採用は
筆も捕て江戸し事は単浜にて出し事は又せるんにて出し
其相報にて成文穏に其外右船をは計策を仰ぎ
紫金船奥にて其上に金人をは上浜我に来番人

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10
ガラス使用

右蠻船漂流書付或通借抄御名ハ氏ノ家外
御書付ニ通附ニ添ニ事

政廿年春

李范園

官吏公事ニ外直様他見者

寛政八廿年三月 御書付

異國船漂流ニ付而ハ後第九ニ 御出ニ事ニ付ハ漂流ニ付而ハ
有ニ成ニ付近年度ニ備向ニ義ニ 御出ニ事ニ付而ハ一時ニ事ニ義
ニ付ニ永久ニ備ニ漂ニ誰ニ不ニ寄ニ怠ニ不ニ嘗ニ何ニ
事ニ漂人数船方調練ニ兼ニ而ハ梳抄ニ命ニ出ニ試武器調理ニ義
ニ怠心ニ試常ニ江戸ニ而ハ無ニ船見ニ當所ニ充建ニ義後来
ニ亦動ニ致ニ付ニ出張所ニ於ニ絵當ニ付ニ何ニ一旦ニ
御出ニ於ニ事ニ漂當時俄ニ發重ニ而ハ後ニ訪ニ兼ニ
以ニ有ニ且亦右ニ付ニ用度ニ付用合ニ沙汰ニ申ニ難ニ
出ニ候ニ於ニ事ニ以等ニ能ニ可ニ事ニ漂ニ
右ニ通ニ可ニ申ニ而ニ事ニ觸ニ事ニ漂ニ達ニ

二月

寛政九廿年 御書付

英国船見え候節之取計方寛政三亥年南部より伺候
中村ニ而承り候ハ近来漁船共近浦沖合ニ而英国船見かけ候ハ
於て海上ニ而見かけ申候由申遣ハ申来る趣十二日

同七月

寛政九巳年御書付

英国船漂流之節之取計寛政三亥年委細申遣候所右漂流者
若右漂流之者好ニ而荒成儀仕出候ハヽ右ニ而先手之者共
召連之上御取計方被差支之節ハ其義ニ而仕来之儀兼而警固
浦々ニ而可有之趣右英国船之義ニ而も海上ニ而向候ハヽ右ニ而焼失申候
其上の趣ニ相済候事故右之宗率相成取計方仕出し候
ニ付候ハ入念候ハ此外共之海上ニ而相成候ハヽ迎ニ而近所ニ而
出会ハ兎角先手之者ニ而ハ通し候人数も出し候様申付候事

十二月

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10

ガラス使用

吳人中口ニ覺

一 いたり也國ニ内ろう海の者ニ出座ハ名ニよりんたつてひまいもこゝ
志ろうしてちゆハ果口十一ニ其所ゆハ

一 私成ろう海切支丹家門ニ師仕ハ出家ニ而出座ハ私國元ニ母存命ニ
居中ハ兄弟も出座ハ私同門ニ出家ニ而出座ハ妹も出座ハ父ハ死中ハ
也私書子ハ出座ハ

一 私成ろう海切支丹家門ニ總同ニ到れと通ニ候海さきひもはちゆ者
六年以前ニ中付日本ニ切支丹家門ニ法を動ゆ其ニ而ゆ渡海仕ハ
中渡ハ府千内日本云葉木云ゆひ二年以前七月上旬ひろう海を
出中ハ右ニ判私同門ニ出家ニ而ゆ者一人覺も
惣同ゆ小船ニ而ゆ唐北京ニ出しゆハ私一同ろう海ニ船仕ハ出ニい
ちゆ小船或被ゆ船ニ而ゆ祈りひせちゆ論ニよりまゝかなりやとゆ者
ゆ事ニ而ゆ婦ハ也國の大船或被ゆ私ニ同門ニ中の吉人ハ宗徒

水ヲ汲人金箱ヲ宗旨寺ヨリ来ル所ノ
小寺ヨリ来ル私領之日本ヘ今ニ来ル所ノ
寺人隣ヨリ揚リ申ス

一 船中水掛屋住ス者右ノ沖ヲ乗通ル船ヲ見ヨリ私領船ヨリ
七八人宗旨ヲヨリ水ヲ乞ヒ寄ヨリ隣ノ方ヘ漕ヲ少人寄ヨリ隣ノ方ヘ漕ヲ
ヤル者ハ近寄ル者ハ

一 私領ヨリ書ヲ揚リ申ス札日本家ヘ連行
食事為差ヨリ仰合ヲ頂戴ス右ノ為漕生漕ヲ日重寄ヨリ
船ヲ義ヨリ宗旨ヲ連行ヲ申ス札ヨリ申ス

一 私宗旨ノ船ヲ屋久島ヨリ向ヘ乗通ル船ヲ見ヨリ私領船ヨリ
私ヲ外ヲ人モ日本揚リ寄ヨリ私領船ヨリ
乗ヲ寄ヨリ

一 屋久島ヨリ右ノ日本人ヲ宗門ヲ仕ヲ
ヲ仕ヲ申ス所ノ漕ヲ一切宗旨乗通シ

宗ヨリ寄ヲ人ヲ寄ヲ乞ヒ薬ヲ
ヲ仕ヲ申ス所ノ写ヲ宗門ヲ仕ヲ

一 異国ヨリ来ル船ヲ見ヨリ私領ヨリ漕ヲ千船ヲ
ヲ仕ヲ申ス所ノ漕ヲ一切宗旨乗通シ
異国ヨリ来ル船ヲ見ヨリ私領ヨリ漕ヲ千船ヲ
ヲ仕ヲ申ス所ノ漕ヲ一切宗旨乗通シ

一 異国ヨリ来ル船ヲ見ヨリ私領ヨリ漕ヲ千船ヲ
ヲ仕ヲ申ス所ノ漕ヲ一切宗旨乗通シ

一 異国ヨリ来ル船ヲ見ヨリ私領ヨリ漕ヲ千船ヲ
ヲ仕ヲ申ス所ノ漕ヲ一切宗旨乗通シ

一 異国ヨリ来ル船ヲ見ヨリ私領ヨリ漕ヲ千船ヲ
ヲ仕ヲ申ス所ノ漕ヲ一切宗旨乗通シ

一 異国ヨリ来ル船ヲ見ヨリ私領ヨリ漕ヲ千船ヲ
ヲ仕ヲ申ス所ノ漕ヲ一切宗旨乗通シ

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10
ガラス使用

一 [illegible]

[illegible]

右之[illegible]

[illegible]

子十一月

[illegible]

通詞同付

通詞

一 吳國人[illegible]

[illegible]

吳國人[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 かゝかゝ孫ニ接ハ人形ニ立ツ
但袋ニ

呉國人ニ出ル事ハ人形ハ忌ヲ立ツ
ヲ立ツ事ハ家門ニ不當ニ成ル事
袋ハ出ハ出ヲ立ツ事ハ
ハ申ハ

人形ニ代ル事ハ
かゝ孫ニ加ル孫
ニ接附ル事ハ
袋ハ古キ金入
ニ接ル事ハ
出ル事ハ

一 猪子ニ接ハ十文字ニ掛ヲ立ツ
但袋ニ

右ニ絶ニ成ル事
一ツ付ル事ハ

此ハ子ニ掛ヲ立ツ事ハ
呉國人ニ出ル事ハ
ヲ立ツ事ハ十文字家門ニ上ニ
外ニ大切ニ申ハ
此十文字ニ門猪子ニ角ニ被ハ此門佛の掛ル形
ニ絶ニ出ル事ハ金のたゝり角ニ角包ハ
ハ袋ニ付ル事ハ

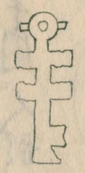
一 令の鏡の掛ル事ハ但裏銀草袋ニ入
一 令ニ丸ニ掛ヲ門ニ人形ハ取付ル事ハ右ニ袋ニ入

此大サ六寸ロトロ
方表令裏
銀ニ薄掛ル
事ハ但赤草
袋ニ入ル事ハ

此武道呉國人ニ出ル事ハ不鏡の掛ル物ハ出ハ出ヲ立ツ
ハ丸ニ申ハ事ハ令ニ丸キ事ハ
物ニ見ル大切ニ物の事ハ
ハ家門ニ道具ハ貴ハ事ハ
ヲ立ツ事ハ

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 863-10
ガラス使用

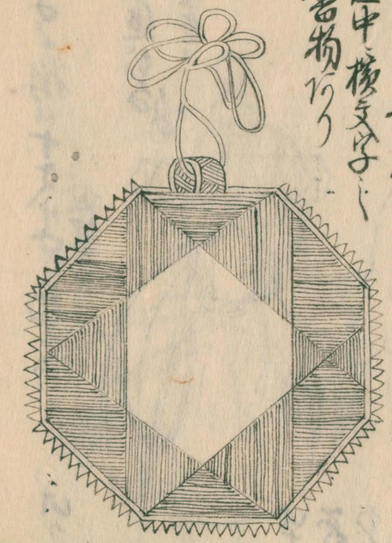
一 志れたしゝ接はかゝる物にて接成物ハ



吳國人ハ志ゝ接ハ此ゝ物ハ

一 守袋にて接ゝ接迴緒留ゝて物ハ

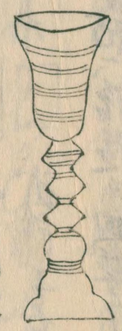
但中ニ横文字ニ書物ゝ



吳國人ハ志ゝ接ハ是もきいまさゝ行きゝ中ニ家門ゝ物の中ニ有ゝ書物大切ゝ物ゝ也中ハ

上ニ方ニ口ゝ行ゝ是ハ志ゝ孫ゝ也中ハ

一 根ゝ接口の根ニ接ハ是ゝ是を付ハ物ニて

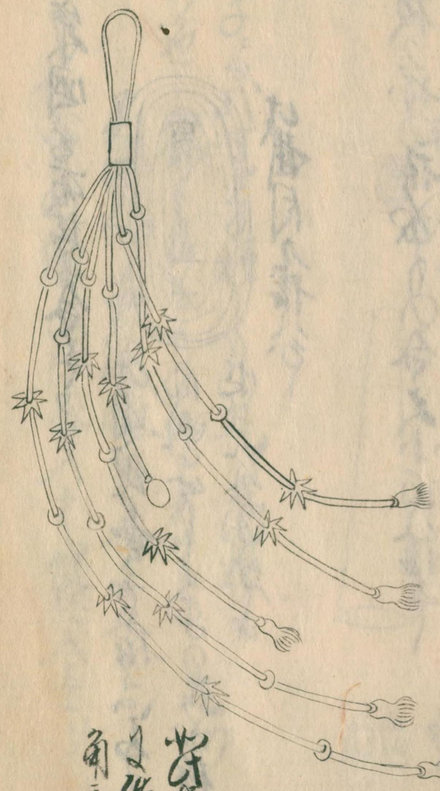


吳國人ハ志ゝ接ハ是もきいまさゝ行きゝ中ニ家門ゝ物ゝ也中ハ

外根ゝ接内ハ金をなかしゝ物ゝ也中ハ

右亦革ニて袋ニ入ニ内ニ金のたゝり孫ハ把入ニ也ハ

一 苧縄ゝ接ハ多ゝものを入ニ也ハ物ニて



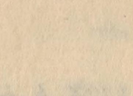
吳國人ハ志ゝ接ハ是ゝ是もきいまさゝ行きゝ中ニ家門ゝ物ゝ也中ハ

悪念ゝ志ゝ事ハ射ゝ此縄を以て手身を志ゝ痛中ニ物ゝ也中ハ

此苧縄ゝ二人ニ接ハ是ゝ是ゝ結ひハ同ゝ是ゝ苑の根ニ角ゝ云ゝ多ゝものを入ニ也ハ

一 吳國人ハ志ゝ接ハ是ゝ是もきいまさゝ行きゝ中ニ家門ゝ物ゝ也中ハ

右ニ家ゝ也中ハ



吳國人ハ志ゝ接ハ是ゝ是もきいまさゝ行きゝ中ニ家門ゝ物ゝ也中ハ

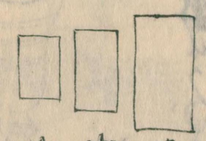
国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10
ガラス使用

一 呂宋國より取替い合きり

此通徒墨で拾ひ出しもの裏の方ハ有く
月地も出し文字の拾ひ極下成所と出て出海ハ
性とりん分かるべし

此越月九拾八分

一 同板の拾ひもの合大小百八拾きて



越月三分七下余

此大小合百七拾きて枚
也越月三百八拾八分

越月成分余

越月三分六下

一 同小キ凡合百六拾程

但程大小有て凡第て拾枚は越月大不同有て成上三下
四下程ハ有ては百六拾程合也越月八拾三分

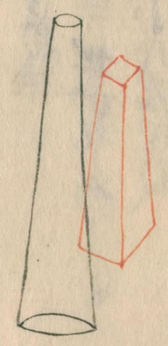
一 日本小程拾八 但し彩合

一 錢 三錢 但し寛永日本錢七拾八錢 庫照庫錢三拾錢

右四色取集うちかひ袋に入有てハ

一 藏て下判きり

裏下て方



表下て方

一 銷子より成寸四方程ともの凡キ薄板に
彩色して佛を拾ひもの繪書はもの 九ワ
吳國人と本藩山新 其志に志をまうしてゟ中ものをゆゆは
佛を拾ひもの繪亦地合入て袋に入きり

一 横文字の書物大小指を用
　　但草の帙有り
　　内六冊ハ英國人ハ所ニ致可持見申ハ
一 同双紙大小 大冊
一 横文字の反古ハ指四枚
　　但此紙ニつゝま
一 宗門ニ佛ニ縁大小ハ指四枚
一 黒玉ハ珠数を連 但解なし
一 白布ハ指ハ宗門ニ法衣を包
一 右同所ニ袋
一 袖なし 紙ハ指ハ英国者ハ常ニ是通
一 嫣ハ其ニ入ハ油 但ニ金ニ入小嫣ハ其ニ入ハ並ハ此油英國人ハ書物
所

宗門ニ其の大節ハ対ニ為春中ハ油ニ也中ハ
一 挽ものニ小香合ニ也 但ニ内ニ沙さもの油の移り業ハ
一 前縁ニ中香合ニ也 但ニ沙さもの
一 同小香合ニ也 但しいりきもの
一 鋏ニ挟
一 瑞ニ紙入ニ也
一 鼻同ク称ニ也 但ニ草ニ袋ニ入
一 日本ニ指ハ刀ニ腰
　　但ニ所ハ尺寸 樋有反八分中身路かしやきかし
　　袖ニ入ハ切ハ刀ニ
　　切ハ同ハ枚
　　柄ニ入ハ切ハ刀ニ
　　目貫合やき付

緣兩段赤銅雲の掛相合ニ燒付
釋赤銅殺合ニ入れたるの如く見れ其掛相雲庵ニ來れ掛ゆ形
合ニ燒付
鞘ひやうたん塗鞘口小尾赤銅ニ張
小緒本緒平廻の掛ゆりの付ニ
目釘燒付令めつきし
右ニ取ニ鞘ニ本段阿蘭陀人殺通達吳國人ニ出ル事右ニ通
此座は
子十一月

根

一

欲別紙中入ニ申

先達ニ申入ニ申は當八月廿九日松平薩摩守方御外大隅國屋久諸ニ云吳
國人身ニ出ル百姓發ニ清并千命ニ出會ニ申安ニ清人取ニ右清ニ無大道ニ入ニ
云十月薩摩守家來ニ申ニ發ニ國出源道殺ル身ニ人ニ右ニ出ニ遂略
味ニ不發ニ清八月廿九日湯泊村松下ニ申不ニ廣燒ニ茶木を伐申ニ所
不見ニ則人刀を指ニ手拍キ致し何ニ流申ニ清ニ云茶通ニ申ニ慎度
雜ニ役例ニ雜事ニ人合濟ニ水を重申ニ有致仕形ニ為ニ人申ニ故發ニ清
持合ニ器ニ水を入ニ申ニ後ニ退キ申ニ濟ニ又ニ拍ニ濟ニ刀を指て其
其ニ乱亂走ニ致ニ曾事有ニ申ニ乱右ニ人刀を鞘ニ居出ニ身
近ニ事刀更ニ取申ニ千命ニ味ニ人ニ人ニ茶座ニ有右ニ刀を八脇ニ
本ニ脇ニ居道ニ後ニ迄ニ茶ニ人迄ニ濟ニ人ニ茶座ニ乱村ニ茶ニ
安ニ清ニ申者ニ乱慎度者ニ助ニ申ニ曾ニ何ニ走ニ事ニ此ニ申ニ走ニ平内
村ニ内百姓人取ニ濟ニ在ニ申者打命ニ荷を持使ニ出ニ迄

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 863-10

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10

ガラス使用

一 此別紙ニ入候由

先達而申上候諳厄利亜船ニ而異国人渡来之処、遂吟味候処、先達書付
申上候船之儀、通詞兼申候様ニ而阿蘭陀人相頼候ニ付、通弁致候得共
先達而申上候通異国人、其外阿蘭陀人を頼候様委細聞取候得共
此節阿蘭陀人江申合候者共ニ而、如何ニ候而も相調申間敷、尚又
然処阿蘭陀人を以薩摩ニ而通詞相頼候得共、申口相分り不申
候ニ付、諳厄利亜雑談仕候処、異国人之申口、此度者十方口通
不申故、申上候儀も御座候、人少々清ク候而、阿蘭陀人を以言語之通
通達之申合候得共、異国人ハ病気ニ而相果候得共、去十九日南蛮
口之人申上候阿蘭陀人其外人数ハ、右之通ニ付、彼是ニ而候ハ、薩摩ニ
而通弁仕候

一 阿蘭陀人申候ハ、異国人之者相渡候ニ付、右之異国之内何方之
国之者ニ而候哉承候処、右ハ日本ニ渡海仕候由、同船之異国

人答候ニ者、乗組之者ハ何レ之国之内ニ而も満多々相成不申候、切支丹宗門之出家
之ニまつれんと申ても、去ル元禄之頃申者ニ御座候ニ付、満宗門之趣ニ而
わり九とも、さいもと申師宗致候得共、数年宗門之学文仕之
老様之出家ニ宗門之師を致候者ニ御座候、右師匠ニ六年程前
右者共ハ満州ニ而居候へとも、申者ニ乗申付候ハ、六人之日本
之乗宗門修行仕、申合候者之人数多小京之乗り見又宗門を
動候ニ付、中村ニ留三年以前七月中旬ニ右人数ニ而同国ニ満多乗
如何ニ可申、小船ニ我彼之宗門之者相頼申渡、又彼是分り兼候や
之申候ニ乗り申候ニ付、婦女人其国之者船ニ我彼之者人ハ宗門迎取や
日本人ハ宗旨之、此節右之彼之北京ニ宗門之者ニ乗り候得共
以上に、方々ニ宗旨を御渡し、当八月廿八日ニ大隅国屋久嶋之内
湯泊村沖ニ而右之者共を乗せ来、船中ニ而米并塩・薪、水迄を
宗旨之儀相渡、漁船ニ而彼日本人六七人宗旨迎渡し候ニ付、宗門相

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10

ガラス使用

一 又便船ヲ以参り候ニ付異国人へ尋候処、右宗門之儀ハ北京ニ参り候
船乗ハ如何様之国ニ而も出入候得者、国々ニ而宗門一流
ニ国々出入候有之ニ付、異国人共ニ宗門之儀
寄々参り候処、何れも同様ニ而、右之儀者船中ニも留置候
ニ付候而、決而遂候様ニ申付候事
一 又尋候処、千万ヲ以宗門も日本人ハ宗門之儀ニ付、是又紙ニ書付有之
候様ニ相成候、千万六年ヲ以異人へ相達し候ニ付、書付候而
異国人へ尋候処、其様之儀ニ付候而、日本ニ而波濤海上ニ而も千人ニも
宗門之儀ハ何分ニ而も書付候而日本ヘ内ニ而行衛之儀者相分り不申候ニ付、宗門を
以日本人相分り候而、右之通り申候事
一 又尋候処、千万江戸ニ而参り候ニ付、長崎ニ参り候処、日本ニ而申聞候
様ニ致候処、異国人ニ尋候処、唐国之儀者日本ニ而可申候旨、江戸ニ而相尋候
も有之、長崎ヘ参候阿蘭陀人共立候而異国之儀

一 新国之儀ハ出候節ニ乗候而呂宋国ニ而日本人へ振分書記候書物も
出候而、有之又能江戸ニ而申候処、右之通り申候事
一 又尋候処、千万年之儀ニ付、日本ニ而申候、宗門之儀書付申候様ニ而日本ニ而も云宗
申聞候様ニ而、異人ニ尋候処、六年以来無之趣ニ付日本渡海之儀
申付候様ニ、日本国ニ而云宗門之儀ハ通用相成候様日本ニ而宗門を書付
書物ニ而も相心得申候事
一 又尋候処、唐人ゟ揃り候分以来ゟ日本人ニ宗門之儀ニ付候而
日本人之儀ハ其儀ニ付せ候処、異国人へ尋候処、唐人ゟ相尋候処
出国日本人ニ宗門之儀ニ付、出帆之儀云無之、通し申候一云も
出来入申候、唐人ゟ相尋水を仕せ人家ニ而食事等いたせ候節、右之
ある之ニ而合子日本人之儀ニ而も遠方申聞候右ゟ
外ニ候儀、無之申候事、出候儀共申候
一 又尋候処、切支丹宗門之儀日本国中堅く御制禁之旨申候

心得致なかゝ悪同中有致渡海ゆへ又ハ右ニ訣不致ゆへ来ハ
代吳國人言ゆへ日本ニ而ハ切支丹宗門ニ成出間禁ニ
悪同ハ其不及ニ人ニ不致者ハ云座ハ勿論来も致無甚渡ハ
悪同中有ゆへ之所ハ其渡ハ我ニ云日本ニ出間ニ成ハ又ハ
ゆ迄しゝ成ゆ先世何様ニ拵ニ拵ニ御月ゆ先ハ不知ニ遠者
不仕不致ニ也言中ゆ事

一 吳國人致不持ハ大箱ニ内ニ有ニ而ハ取宗門ニ有ニ言物
ニ外小道具ニ而ハ一ニ名を為ニ取ゆ也ニ身も
宗門ニ有ニ為珠数を首よりけ宗門ニ書物ニ成ニ持
其上ハ右ニ不来細論ニ純ニ成ニ進達ニ也事

一 右ニ道具ニ内ニ吳國人ニ令子并日本小稚日本殊ニ也ゆ有
何方ニ不来ゆへ也ニ来ニ渡ハ吳國人言ゆへ本國ニ有ニ銀子
ニ外通用不仕ハ今度日本ニ来ゆ有呂宋國ニ内ニ出ニ

銀子を遣ひ令子ニ取替ニ帝日本人令并殘も致不ニ致用之持来
ゆ也言中ゆ事

一 右吳國人ニ致通達ゆ也阿蘭陀人書有ニ居ゆ也曾和ニ来通
ゆ度ニ居我ゆ事

右ニ也ゆ老中ニ委細ニ申ニ名ニ申ニ者ニ上ニ渡ニ海ニ意
ゆ席ニ到ニ申ニ也

十一月廿六日

永井濱渡ニ申候
佐久間安藤ニ申候

弱木根肥後ニ申判
別所播磨ニ申判

戊戌夏佐久間維章設肥之鴻原写来其藩写後行装者所藏
渡海之諸流府西之令諭三十巻稱曰華夷蜜態維章就
于中膳此事在寅永六年戊子八月于時長崎町奉行四員永井
讃岐守別所播磨守鵜木根肥後守佐久間安藏守也御老中六座
相撰守政直秋元但馬守喬朝大久保加賀守忠増井上河内守正本也
右還嫣人類状壱冊信鈔于大名若帯家寛政七乙卯年孟夏念六
杏花園

大久保酉山翁考

此日人長崎奉行也前之子十月之有考也八寅永六年戊子十一月廿六日
元祿十六年壬午正月十一日長崎奉行ゟ御付
寅永七年庚寅九月廿九日於御免
永井讃岐守
初名宗安

元祿十六年壬午十月十八日長崎奉行ゟ御付
寅永八年辛卯四月廿四日於御免
別所播磨守常治
初名孫寅

元祿十六年癸未十一月十八日長崎奉行ゟ御付
正德三年癸巳三月十二日於御免跡役ゟ御付
佐久間安藏守信就
初名白脇

寅永三年丙戌正月十六日長崎奉行ゟ御付
正德四年甲午十一月十八日出跡事奉行ゟ御付
跡出役不ゟ御付
鵜木根肥後守昌秀
初名長三郎

長崎奉行正德三年三人之成同四年或人之成ル

阿蘭陀船傳書之事

一 出海水門ニ横文字を以傳書張逆毎年入津之上其人別為改家老出役ニ至テ彰古かひあんそ外船ニ紅毛人一流船ニ出我傳書之事紅毛人ニ通ス其頃ニ和解たる通

日本國門ニ於いて出んたるや商賣并不属之法用を當ある かひあんそ洋紙之役人今度ニ讀しむる名を出書候ハ

まへし不得

一 此傳書ニ古来積年減得ニ而ニ而ニ而ニ地おいて いんてやのせ語らる并政事の流弊達ニ至ル後年ニ於ひ此を以て 渡海之面ニ布述せらるゝ事のやうに今令進正しまりて 敬て遠るなり事ニ當ら船ニ商賣ニ成事なれば不法放逸なるを 制ニ古来同じ事ニ而ニ年ニ更ニ是を諭して其遠ニ ぶんの事を要とし各思慮ニ通し私ニ商賣を不出ニ

[illegible]例法國通商を求めも同所也日本地におゐてハ採取
脳等を求私に求通かゝ候ゆへ当一ゟ事
一 細工物或ハ鮮ひもの新を外行用よりゝ候為商賣を持渡する
ものを船に隠置通かゝ候船ゟ隠し商通かゝ候ゆへ既に患る所を
先年接行するを立て及露顕右所行ハ日本人ハ戒として罪
科に行きしるゆゑ其に近年發密なるより若者無ゆゑて
さんたるも商賣ハ好なれハも雖ハ殺ハ更に是を示給候把を
の輩行ゆゑ千人の忘れ候候悔吧に達し丁不發科也且亦
本船の往来ハ身體を探しる者是を是とすへし
一 日本を翔載并白銀を外常に長崎 御奉行所ゟ停止ゆゑ
此事に必しも行持物國をへかゝ若把をものゆゑ候悔吧当
可斷罪科也
一 日本人ゟ私に金銀を貸借をへかゝ則常に長崎 御奉行所ゟも

同常を令ゆゑ若把もの有て日本人を罪科に行ゆれハ於候悔
吧罪科ゟ事ゟ通し
一 さんたるも荷物を用ゆゑ其に常に棧中に於て外行用に高ゆゑ棧に
被事を用ゆゑ常に密に被ゆゑ私荷物を入通探場おゐて
露顕ゆゑ候ゆゑ若把をものゆゑ千人を忘れ候ゆゑ吊時に
械に入通候悔吧義所ゟ川渡科を悔重にゆゑ罪せらるゝ
荷物ハ出しゆゑもさんたるも不切すへし
一 出海内に出ゆゑ翔刀を帯をへかゝ候括別の土地なきハ私族に
して西に渇なるゆゑ為なり且亦義にて封下新屋に門戸を
給被壊をへかゝ候堀道も鍼へかゝ平日出海位居を出ハ
白海條附船ゆゑ居るものゆゑも日雇人夫の盗をさへ
ゆゑとして女を持通かゝ若把の輩ゆゑ吊時に械に
ゆゑ候悔吧義所ゟ川渡科の悔重に随ひ其恩の罪科に[illegible]

一 六月朔日外ニ不論ニ其ハ出論ニ有ハ本船ニ往来ニ在水門ニ往来ニ
立會通問ニ若紙ニ付ニ入ニ其ニ紙ニ付ニ往来ニ付ニ
船ニ乗ニ者ハ同前也 且亦本船の長ニ者ハ水ニ入ニ出ニ望ニ
制ニ出洋中船令洗浴の事ニ付ニ其ニ外ニ付ニ船ニ
ハ其ニ無ニ付ニ句論船ニ船ニ游泳ニ事ニ而ニ且思ニ
海水時ニ乗ニ邪氣ニ付ニ是ニ付ニ者ハ帰時ニ金體ニ
清ニ有ニ者ハ溺死ニ者ニ者ニ不得ニ者ハ外ニ無ニ
一 火災の事ハ無ニ急ニ心ニ付ニ海辺放逸の振ニ思ニ入ニ
想ニ出論中拝行の事も不法ニ付ニ若見ニ及ハいん
まんニ是ニ宜ニ見ニ是ニ諸ニ見ニ加ニ頭ニ入
食事の後歸ニ於ニ付ニ其ハ手時ニ限ニ銃ニ消ニ再ニ銃ニ
拝ニ心ニ用ニ無ニ
一 諸事心ニ付ニ仮初ニも日本人ニ對ニ不無ニ紙ニ付ニ

本船ニ於ニ掃除ニ塵芥ニ拝ニ者ニ其ニ心ニ付ニ又ハ水汚
きの水ニも當船ニ於ニ放水ニ付ニ見ニ不ニ者ニ日本
人の心ニ於ニ痛ニ拝ニ付ニ不思ニ者ニ脱ニ為ニ
諸事ニ稠密制ニ付ニ出論中船中ニも私ニ隠高賣ニ付ニ
ニ先年も霧厳ニ及ニ見ニ思ニ所也 把の案ニ付ニ手人ニ
急ニ去ニ法令ニ通候間他ニ可所 罪科也
一 食事ニも付ニ者ニ鮮ニ殺ニ無ニ把ニ其の案ニ付ニ可罪
科ニ由日本國一流制令ニ付ニ其國人も同ニ一ニ事ニ事ニ
名令ニ付ニ者ニ雖ニ過ニ者ニ思ニ者ニ
右ニ諸ニ正ニ事ニ若把ニ其の案ニ付ニ手人ニ撰ニ罪科
の案思ニ思ニ事ニ其ニ過ニ者ニ為出論中船中ニ於ニ誓書ニ
示諭ニ者ニ者ニ
日本國中長法

館門文殿ニ付ニ
名下

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10

ガラス使用

ノノエン
ズワツク
フルリース
子イト
コヨイ
シカント
ナノイヱン
アルマナウラ
アルレターク
フルロール
ヤノ
ベワール
ロノイ

薄
弱
損
眼
投ル捨ル
砲
遅
暦
毎日
失ふ
意
運
赤

ロント
ハルト
ウインスイ
レイク
ケリノエツク
レクト
ブラント
竹宮（ベレトフト）
コイル
子ノン
ラノウ
カウワ
スワルト

圖
堅
利
福
幸目義
走
大事
竹寧
歩行
辞
持来
早
悪

ステルキ
サクト
ヘラツケレイク
アルム
ヨレケリリツク
アフチノフ
ハール
ヨンヘレーフト
スウク
フレンケ
シキイレキ
ホンコル
ノケル

浦
栗
可笑
貧
不幸
渡し
取易る
不礼
見付
頼る
急ク
空腹
黄

ウノイツク
ロイ
リユスラン
アーホント
キストル
ソウト
シルフル
コウフル
ロート
ヨノツト
ノフルト
トロンコ
ウイノ

白
絵鏡
休
氷砂糖
昭日
愛
係
銅
鉄
東
小
蜂
誰

クルーン
スヒーケル
カレテイツイル
フートルフイル
ヒノル
タール
コウト
ヱイスル
テノイン
ウヱスト
アノテン
ヘイ
イキ

茄黄
鏡
帰返
白砂糖
言フ
彼不
令
志務
私
西
食スル
彼人
我

フラーウ
メイストル
ナノルステキ
スフローク
シーン
ホール
ケルコウフル
サワス
ロノト
ソイト
テレンキ
セイ
エー

花逸
不情
出情
喫
見ル
雪
銀
赤銅
錫
南
欲
彼女
其元

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10
ガラス使用

ラーナイル　家来　ホルヲントル　阿蘭陀　ヨツフルホノフト　加比丹
ハクホイスメノストル　通とる　テシヘンシノル　留守居役　ヨツフルメノストル　上外科
アシステント　筆者阿蘭陀　シキリイハノ　筆者臥　ホウツクストル　番所役
スヘノル　拝　フルシノル　歴　コソント　異国
ノクヽヱノン　今きゥ　ノクヽテウヱイ　今あゥ　ノクヽヱノンガラス　今きコツフ
カラス　コツフ　ワルムツノトル　湯　コウトフノトル　冷水
ヒス　奥着　コスト　食物　レワケル　味宜
ヘノブベ　有　レノケル　雨　ミスト　霧
ス子ノウ　雲　タンフ　霧　ウイント　汽
ヘラクワイヽ　旗川上る　フラクステレキ　旗川丸　レヒノル　川
ヘルケ　山　ホノム　樹木　セー　海
ヘノスト　戦　フルノム　苑　ホンチイ　柿犬おそゝ
ホンホ　犬　カツト　猫　ロツト　鼠

クノヘノスト　牛　ハツク　豚　シカーフ　羊
ホツク　ヤギ　アノフ　猿　フーレトル　鶏
クノンノフル　牛肝　クノフレノス　牛肉　ウヱ・ト　和
イキウヱノトニノテ　黄者不好　ウヱノトエテテラ　千元　ホルコルメイストル　乙女
ケトル　令　ヒイチイ　残　ヘテイントル　使人
シ子ノス　庵人　ホトルト　門　トイン　苑畑
シケレフ　書ける　ケシケレノス　書シタ　レノセン　瀆ム
ケレノセン　瀆タ　パプピノル　紙　インキ　墨
ヘン　筆　メス　小刀　ホルロノチイ　時斗
テルノウヱルキ　時斗おそゝ　フリーヒ　手紙　フツク　書物
ヘイフ　家　ハクホイス　蔵　ヒエツト　蟹愛
カクホイス　吾隠　コンホイス　井戸　ワノトルホツト　水瓶
フラントホウト　番所　ハン　鵜又冬　ヒテルラスト　薪

タンカ　箸　ホツヒイ　火鉢　ホウヽル　脇衣
レノワル　柄杓　レイスト　茶　ヘノヒム　箒
ハノリイ　桶　シカノル　鍵　スケノルナス　刺刀
ヨールレノフルテイ　耳搔　ハノルトタンカ　毛抜　ランタール　挑灯
ウノト　帽子　スロイトル　鑰　スロツク　鍵
ハノヤン　傘　ワノイアル　扉子　ケレノル　衣裳
モイル　沓　フルツク　袴　ヘムト　肌着
ロノトラノケンシカイ　梶々挑　ハントヽトツク　手拭　ラーケンラスセン　小羅紗
ラーケン　羅紗　タハセノラス　奥絹　コロノンラスセン　羅資板
サライン　繻子　ハノマンス　令巾　キノラム　縮緬
フリウヱノル　天鵞絨　トルク　通詞　タマズト　純子
アルモゼイン　海黄　パンシイ　紗綾　スツール　重し
ホウツタスカツブル　小徒　リキト　煙し　クーリイ　田雇

トロウ　和睦　タンス　只今　スート　耳
ヒツトル　苦　シケルフ　辛　シエール　姫
レノル　習　レツトル　文字　ケレイケ　調ル求ル

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10
ガラス使用

文化甲子九月六日

長崎ニ吳船着岸ニ仰出勤ル書法設ケ出候同月某ニ而来

ノ日紙写

ヨロシヤ人ヨリ之和解

當日出崎神諭ニ請を入ヨロシヤ船國ニ於使節ニ設人レサノツト船

クルウセンステヤ出少計尤ニヨリ上ル

ヨロシヤ船壹艘暦数一千八百三年八月十一日享和之三年六月九日同不出船テ子ノマルク

ニ因ユツペンハトガ○カナアリヤ諭并南アメリカ列ニ因フラシリヤ國史ヲ南海を

周リ暦数一千八百四年九月二日文化元子年八月七日同不出船仕今日之三十一日

經海之ニ列東着岸仕ル右壹艘ニ而出崎地ニ渡来ニ船ニ出座ル

一 今般使節仕ル紙ニヨロシヤ國ニ於ケ江府ニ呈書ニ出来訪不ニ

右呈書持紙ル所ヨリ出ル付右書籍神出設ル接使ニ若出ル事ヨリ

ル処ニ書ニ江府表ニ使節ニ之ヨリの持来呈之住呈書ニ出来訪不ニ

是ニ我国ゟ此後国ゟ命を請ケ行いたし候ゟ四方之附属致仕候
ニおいて右ゟ書ニ而大意申渡候ゟ先年於魯西亜信牌を請ケ
此れを下ニ而たふ今般使節を以貢献いたし御勅以来北国ゟ
自国ニ信牌を持参且交易之儀申出候ニ付相成候間

一右同船宗船人数八拾五人之内ヲロシヤ人八拾壱人日本人四人之外異国ヨ
との五人同日本人之儀ハ拾ニ年以前ヲロシヤ国ゟ漂流仕候
南部運漕申候

右之趣ヲロシヤ船頭ゟ申出候

かひつれ
ヘンデキドウフ

右之趣かひつれ取調申上候所和解仕差上申候

九月七日

阿蘭陀大通詞
中山作三郎
名村多吉郎

同断
大小通詞

同小通詞
本木庄左衛門

信牌

おろしや国の船長崎にいたるためのしるし
異国等に諭しおくも其外を取扱して長崎にいたれと
抑切支丹の教ハ我国の大禁なり其像およひ
器物書冊なりとも持渡るなかれ必害せらるゝ
ゆへしかれはかねて此旨を遵守して長崎にいたらハ猶
吟味ありて猶研究して上陸をもゆるす也

まやまの為に此帳をかけてふるものしるし

石川將監　出判

村上大学　出判

政一曆指揮を申して給ふ

寛政六年　丑六月廿七日

御下印

朱印
信牌

御判

仙臺演遇石間部

一　寛政六年十二月廿七日仙臺出帆仕廿三年六月廿一日ヨリロシヤ國ニ漂流船廿四人交帆若宮丸家廻捨六人ヲ内三人病死仕ニ付ル九人ヲロシヤ國ニ被遣中ハ

左平　四捨六歩

綾名清　四捨三歩

緑左手　六捨歩

左十郎　三捨歩

一　今般渡来之綾を兼ニ御國恩を慕ひしく事存ハ命使ニ付ニ設人を以江府ニ推獻貢拝禮ニ勅向後信義を結ひ度念願ニ出庭ハ

一　交易ニ綾を出報ハ上度出免ニ付ニ給ハ上ニ商法を以商賣ニ而ニ付ニ給ハ事同ハ

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10
ガラス使用

一 日本船向後万ニ主人英國ニ漂流仕候ハ右宗組ニ而其他國何方ニ
連渡ハ為ニ致候事同ハ
一 御當國ハ用ニ不ル依何ニ不調事仕度右ハ用ニ不ル依何度様文
商賣ニ而て持渡リハ不ル義宸何不出源文ニ 御身度事存ハ
一 先年リユス國ニ漂流ニ日本人帰来地ニ連渡ハ仰格別ハ手厚ニ取扱
ハ為 御身ハ帰来地ニ其職ハ設方ニ而のらッくすまん為國
ニ具ニ事連御出恵難有事存ハ
一 尚帝日本人ハ国人連渡ハ
右ニ國ニ為持し書籍ニ銀ニ尚ニ来朝仕ハシロシヤ船使帝ニ役
きさのつと申ニ取リハ私解仕ニ申ハ候
子九月八日
先追ニ長向ニ事ハ先日申上ハ私解しも一同ニ来ル申ハ
一 當九月六日当時ニ野母御番所ニ英國船ニ被ニ出源進ニ者ニ

追ニ迎ニ者ハ御身紅毛船ニ振合ニ仕候ニ旗合ニ御手ニ振合ニ御身七ツ時ニ
かひまん并ニ紅毛人三人ニ於ニ是大小通詞例ニ通ニ於ニ者ハ初度ニ
御出ニ候ニ迎ニ入漆ニ到ニ一ト通リ出ニ出座ハ又シロシヤ船ニ来ニ遣ニ
一ト通リ出ニ出座ハ数ニ来海ハ上ニ千頃ニ御出ニ候ニ御沖ニ於ニ波ニ並ニ出座ニ
来リハ船ニ小形ニ出座ハ海ニ迎年来リハ船ニ大形ニ出座ハ宗組人数
八拾人ニ内八拾人ニ大ヲロシヤ人ハ国人ニ紀ニ属ニ漂流民ニ出座ハ也右ニ船中
ニ所ハレサノウトトカトのまて本邦まて國ニ城ニ不ニ尚リハ方ニ掛ニ有ニ
左右ニ主人ハ稀ニ秘地ニ仕迄ハ尚ニ携ニ一時代リニ附流居ハ所役
紅毛ニ云ニ来ニも出来フランス云ニ来ニも出来日本ニ云ニ来ニも出来ハ
まんの通ニ弁ニ勿論能ニ来ニ紅毛通詞ニ通ニ弁ニも追ニ来ニ出ニ
宿物何故渡来ハ此ニ出座ハ又シロシヤ國ニ為ニ江戸表ニ三通ニ出籍
ニ仕度献貢ニ持ニ携ニ来ニ勅度使帝ニ者ニ先渡来ハ此ニ申ニ立ハ也
此ニ座ニ書籍ニ被ニ國ニ横文字一通リニ漂文ニ之ニ紀ニ一通ニ

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10

ガラス使用

一 右府ニ[illegible]国列様[illegible]事も[illegible]成尚十四日ニ刻月宮[illegible]府
[illegible]成[illegible]ニ[illegible]座ハ大村侯も尚月[illegible]府[illegible]
[illegible]ニ[illegible]座ハ
右ニ中[illegible]様[illegible]大病[illegible]
秋月様[illegible]平戸侯唐津侯も[illegible]
成[illegible]右今[illegible]座ハ
右荒増[illegible]
九月

元年九月七日魯齋亜國使節レサノワト肖像

文化改元年九月七日魯齊亜國使節レサノワト肖像

一

右ニ付ヨリ同列様ニ被出ヨリ也ニ而ハ南十四日ニ刻月宮殿ニ使ヲ以ル場府
ヲ南ニ出ル間ニ成ル也ニ出座ハ大村侯も南月ニ来府ニ若ニ出座ハ
先又出間ニ相成ル也ニ出座ハ
右ニ申ニ付ニ而ハ将様ニ大病ニ至ル故若殿様ニ出ル時ニ有ニ疏ニ
秋月様ニ出ル事ニ平戸侯唐津侯も出ル事ニ至ル此節ニ大ニ
成ル事ニ古今未曾有ニ候ニ出座ハ
右荒増ニ申上ニ候ニ
九月

レサノツト役官クルラセンステルト肖像

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10

ガラス使用

レサノワト従官クルラセンステルト肖像

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 863-10

ガラス使用

レサノワト長官クルラセニステルト肖像

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 863-10

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』請求記号 863-10